

|     |                       |     |
|-----|-----------------------|-----|
|     | 第14回根研究集会発表要旨         | 193 |
|     | 2000年度根研究会賞受賞講演要旨     | 220 |
| 情 報 | 第6回国際根研究学会シンポジウムのお知らせ | 228 |
|     | 求人（ポスドク）              | 230 |
|     | カレンダー                 | 231 |
|     | 根の研究9巻総目次             | 233 |

## 会員の皆様へ

### 1 研究会について考える

本研究会は、新しい世紀に入っている来年2001年に10歳になり、その年に研究会設立の一つの目的であった、国際根研究学会シンポジウムを主催することになったのは感慨深いものがあります。研究会をここまで育ててこられた関係者を含め、会員のみなさまに敬意を表します。

最初は数名で始めたものが、現在では会員数は約500名に達し、活動内容からして学術会議の登録団体としての要件を満たしていると認められるまでになり、第18期より活動に参加しています。会誌「根の研究」には、原著論文を含む研究関係の記事や各種情報が載り、阿部さんを中心に管理していただいている研究会ホームページやメーリングリストは情報の交換や公開に役立っています。研究集会は、成果の発表に加え、議論や情報交換の場として機能してきました。研究会賞は、これまでの授賞歴によって会や賞の性格づけに一定の影響を与えてきました。各種出版物は、会員、非会員を問わず情報源として役立つとともに、「根の研究」の重要性やおもしろさを認知させる役割も果たしてきたと思います。

この間、会員のみなさんの間で、会の名称問題（「研究会」と「学会」）、活動内容、性格、会員資格・制限等についていくつかの議論がありました。各会員がこの研究会を「利用」してご自身の研究の発展に繋がっていただくことが会の発展につながる、このような観点からの議論の発展を期待します。具体的には、研究会が用意している各種媒体によって有益な情報を得るとともに、そこへ向かって積極的にご自身から情報を発信していただきたいと思います。

### 2 第6回国際根研究学会シンポジウム

組織委員会を中心に1年後に迫ったシンポジウムの準備が着々と進んでいます。現在、セッションの構成や招待講演者の選定などを始めとするプログラムの具体化の作業が進んでいます。228 ページに検討状況について掲載してあります。

### 3 根の発育学（森田茂紀 著、東京大学出版会）

森田さんが、標記の本を執筆され、つい最近一般書店に配本されました。単著である特長をいかに発揮し、主として水稻根の発育形態学に関する研究成果が基盤とし、他の作物種も含めた、根系学のまとまった解説書で、きわめて広範な領域をカバーしていて、また文献や索引も充実しています。

本号に、2割引で購入できる申込書が同封してあります。どうぞご利用下さい。

### 4 第15回研究集会・総会

2001年6月9日（土）に、農林水産省 野菜・茶業試験場（愛知県知多郡武豊町字南中根 45）にて開催予定です。詳細は研究会ホームページと次号に掲載します。